

# おとずれ

第四三一号

二〇一七年七月二日発行

日本基督教団 東大宮教会

もくじ

「神の子イエスキリストの福音のはじめ」

牧師 久保島 泰

「思うままに」

「好きな絵と詩」

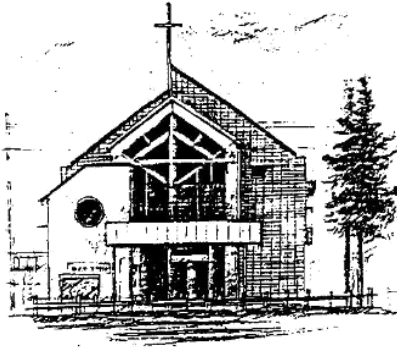
「義姉のこと」

「秩父墓苑墓地清掃と墓前礼拝」

に参加して

「牧師室より」

牧師 久保島 理恵  
牧師 久保島 泰



「神の子

イエス・キリストの福音のはじめ」

マルコによる福音書

第一章一節〜三節

牧師 久保島 泰

神の子イエス・キリストの福音のはじめです。まだ、始まらない状態ではありません。既に始まっているのです。もう待たなくてもいいのです。実にイスラエルの民はずっと待っていました。救い主が来て自分たちを救ってくれる時を待っていました。

マルコはこの救いの始まりについて、イザヤ書とマラキ書の言葉を引用します。旧約聖書には4巻の大預言書と12巻の小預言書がありますが、一番最初のものがイザヤ書で最後のものがマラキ書です。つまりイザヤからマラキまで、ずっと預言され続けてきた、その救い主がついに来た、神の子イエス・キリストの福音のわざが始まった。マルコは深い喜びと畏れと共に福音書を

書き始めるのです。

ことは荒れ野で始まりました。預言者たちが告げていた通りです。イスラエルの荒れ野です。砂漠です。昼は照りつける太陽の熱で、すべてのものが干からびていく、そして夜はすつかり凍てついてしまう。命の痕跡が跡形もなく吹き飛ばされてしまう、生きる希望など持つことなど決してできない環境です。

ふと思うのは、私たちの住んでいる風土は、砂漠の荒れ野の厳しさを本当に理解することはできないのではないだろうかということ。母なる大地、という言い方があります。豊穡の大地です。自然が時に恐ろしい力で人々を呑みこんでしまうことがあります。その一方で、そもそも命を生み出し育てるのも自然です。自然が命を、私たちを決定的に拒否するということはありません。全ての命が、母なる豊穡の大地である自然の中でつながりをもっています。

けれども、聖書で語られる荒れ野は違います。自然と言っても、豊穡の大地ではありません。むしろ、冷徹に人間を、そして命を拒絶する存在です。預言者たちの目の前にあるのはそういう荒れ野なのです。

そして、預言者イザヤが見ていた荒れ野の向こうには、滅ぼされた祖国の廃墟があります。多くの兵士も民衆が殺されました。神殿は破壊されました。生き残った者たちも廃墟の町に取り残されるか、捕囚の民とされました。捕えられた者たちはこの荒れ野の旅を強いられ、強制的にバビロニアに連れてこられました。

帰りたい思いは残っています。切実な思いです。荒れ野を見ればシオンを思い出さないわけにはいきません。そして、思い出しても決して帰ることはできない。その行く手を厳しい荒れ野が立ちほだかっているのです。

「バビロンの流れのほとりに座り、シオンを思つてわたしたちは泣いた。堅琴は、ほとりの柳の木々に掛けた。

わたしたちを捕囚にした民が

歌をうたえと言うから

わたしたちを嘲る民が、楽しもうとして

『歌つて聞かせよ、シオンの歌と』

というから。

どうして歌うことができようか

主のための歌を異教の地で。

エルサレムよ

もしも、わたしがあなたを忘れるなら

わたしの右手はなえるがよい。

わたしの舌は上顎にはり付くがよい

もしも、あなたを思わぬときがあるなら

もしも、エルサレムを

わたしの最大の喜びとしないなら

(詩編第一三七篇一〜六節)

けれども、預言者たちは、希望を語りつづけました。絶望の中で、やがて来る救いの時を語り続けたのです。マルコはそのような預言者たちの言葉を引用しつつ、福音書を書き始めるのです。

マルコもまた、望みが絶たれそうになる時代に生きていたからです。ローマ皇帝が神を名乗っていた時代です。

例えばシーザーの子アウグストス、これはイエス様がお生まれになった時に人口調査の勅令を出したあの皇帝ですが、自分の伝記を書かせてその題に、神の子アウグストスの事績、と記させた皇帝です。

そんな時代にマルコは、神の子イエス・キリストの福音のはじめと記します。人間が勝手に名乗る神ではなく、まことの神の子がおられる。そのお方こそイエス・キリストだと記すのです。これは危険なことですが。神を名乗るローマ皇帝の権威に逆らう者として迫害を受けるかもしれません。けれども、その危険を承知の上で、マルコは神の子イエス・キリストの福音のはじめと記すのです。

危機の時代でありました。外からの迫害の危機だけではなく。内側の信仰の危機もありました。イザヤの時代、バビロン捕囚のころにはシオンに帰る夢を捨ててバビロニアに帰化してしまおうと者たちが少なからずいました。マラキの頃は折角シオンに帰っ

てくることができ、神殿も再建することができましたのに、時の支配者ペルシャにこびへつらつて、祭司たちは自分たちの既得権を守ることばかりを考え、腐敗していききました。

いつの時代のことでしょう。遠い昔のことでしょうか。そうではありません。イザヤの時にも、マラキの時にも、マルコの時にもそうだったのです。いつの時代にも、自らを神として権勢をほしいままにしようとする支配者がいるものです。

けれども、そんな荒れ野で、人々は待ち続けました。希望を語り続けました。

「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまつすぐにせよ』』  
帰りたくても帰れない荒れ野に、たどるべき希望の道すじがまったく見えない荒れ野に、「道を備えよ、主がそこをお通りになる。」という声が響くのです。

主がお通りになられるのです。その主は、わたしたちの主です。わたしは

ちをお救いになるお方です。その主がお通りになるということは、その道ができるという事は、わたしたちもその後をついて一緒に帰ることができるということですよ。帰りたくても帰れない、というただ悲しいだけの思いだったものが、帰れるかもしれない、いや帰れるのだ、という希望に変わるのです。

聖書の民は、荒れ野で始まりを語り続けた民です。モーセが、イザヤが、マラキが、バプテスマのヨハネが、そしてマルコが、語りました。

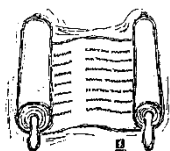
語る時に大切なことは、語り継がれた系譜の中で、自らも先人が伝えた神の言葉を聞きながら語ることです。

そして、荒れ野で語る、ということですよ。荒れ野で、光を希望を慰めを必死に願い求めながら語るのです。自分の中から出てくる希望ではない、まったくの荒れ野に、ただ神の御業として現れてくる福音のはじめをただ喜んで聴き、それを他の人に伝える、ということですよ。

荒れ野は危機です。けれどもまた、その危機でこそ、神の声を聞くことができます。切実に真剣に聴くことができます。そのために荒れ野にでていかなければなりません。

その意味では、礼拝は荒れ野でなければなりません。この私がただ一人神に向き合い、鎮まつて御言葉を聞く場所であればなりません。人間のおしやべりではなく、神の御言葉が支配する場所であればなりません。

御言葉を聴くことによって、この私の罪が明らかにされ、同時に赦されていることを知らされ、まことに生きておられる神の御前にひれふすのです。けれどもただ鎮まつて聞いて終わりでもありません。感謝し、賛美が起ります。そして、その喜びを、まだ知らない人に伝えるためにそれぞれの場所に遣わされていくのです。



「思うままに」

□□ □□

我家の小さな庭に芝生が行儀良く並び夏野菜が植えられた。仕事の合間を見て連れ合いが植えてくれた。私はみずみずしいきゅうりや真赤なラデッシュをピクルスにした。ラデッシュの赤が鮮明に増し輝いた。夏を乗りきれるように酢づけを研究中である。次はラッキョウと梅を漬ける。梅は連れ合いが漬けてくれる。私が初めて梅を漬けた時大失敗をしたからである。減塩に心がけて漬けてくれる。白のテーブルに赤く染められた梅を干す時本当に美しく一粒一粒が宝石のように輝いている。穏やかな日々感謝である。

ようやく決まった。親は何も知らなかった。ショックである。喜びの日を迎えるあなた達。「神さまが与えて下さった良き伴侶」と生涯忘れる事のないように。

初めて、みもしらぬその女性にあっ

た。複雑な心境である。奇遇にも連れ合いの妹二人と母上とその女性の名が同じと知り笑みと心が柔らんだ。食事をしながら嫌いな食べ物は？と、グリーンピースと、本日の懐石料理の品書きに確かにグリーンピースご飯とあった。しかし、届いたのは赤飯であった。これも私たちの話を聞いて中居さんが気をきかせて下さったと知った。ここま

で来るのに沢山の方々の祈りと沢山の方々にお世話になった事であろう。そ

りも神さまのお導きに感謝である。

傾聴の講習を受けた。「聞く」と「聴く」との違い。相手の話を否定せずありのままに受け止める事。否定しないで肯定的に認めるとは、実際にどうやって聞くのであろうか？眉一つ動かさず聞くのであろうか？あるいは聞き流す？聞き捨てる？。自分と同じだから認める？ いいやそういう意味ではなく、自分の生き方とは違うけれどこの人はこの人なりに一生懸命に頑張っ

て生きて来たんだなと相手を認めながら聴くのである。（傾聴なのである。）それは相手を丸ごと受けとめる事。相手のプライド「自尊心」に配慮した接し方聴き方、関わり方なのだ。それだけがその人なりの意味や価値を持ちながら生きている事を認識し大切にしながらその人に向かい合い受け止める。

良い聴き手になるためには「ああそうですか、ああそうですね」と聞くだけではないのである。向き向きがあるであろう。先生は誰にでも傾聴は出来ず。誰にでもいいきられる。誰にでもとは魔法の言葉の様な響きである。何も取り柄のない臆病な自分に特に響いた。難しい。スキルアップ講座を受けた。深くて益々難しさを感じた。

主を信じる歩みは自分自身だけのものではない、与えられた恵みを隣人の救いの為に注ぐ事と。自分の十字架を背負うとは？ 自分の与えられた使命とは？

青年の時に信仰を与えられた。その

頃は教会が楽しくて楽しくてしかたがなかった。何も知らず自分の事ばかり考えて生きていたからであろう。年を経た。いつか来るのだ、その日が、“来よ我汝を捨てず”と告げられる時まで迷子にならないであろうか？それらの事を考えながら歩もう。「祈りと感謝と謙虚」という言葉を大切に。

「金子みすゞ雑感」



□ □ □

単身赴任の時の最寄り駅は南海電鉄の貝塚駅でした。改札口を出てすぐの狭いコンコースでしたが、その階段の降り口近くで露店の様な形で二〇枚程の額に入った絵を売る店が開かれました。普通であれば素通りする様な店でしたが、一枚の絵に惹かれて立ち止まってしまいました。  
背景らしいものが殆んど書かれていない紙に、緑がかった眼をした一匹の

黒猫が魚（たぶん鰯）の尻尾の先を咥えて振り向いているだけです。思わず手にとってしまった。絵の右下に署名と花押が押されていますが読めず、額の裏をみると、風の画家、中島潔（なかしまきよし）の略歴が紹介され、それとは別に絵のイメージの元となったのでしょうか、詩のコピーが貼られていました。

お魚 金子 みすゞ

海の魚はかはいさう。  
お米は人につくられる、  
牛は牧場でかはれる、  
鯉もお池で麩を貰ふ。  
けれども海のお魚は  
なんにも世話にならないし  
いたづら一つしないのに  
かうして私に食べられる。  
ほんとに魚はかはいさう。  
当たり前のこととして魚を食べるは

ずなのに魚を“かはいさう”な生き物として感じる心、そしてそれを食べる（食べなければいけない）みすゞの悲しみ、さみしさに心を打たれました。  
翌日、中島さんの絵でもう一枚欲しくなったものがありました。  
絵の右上に海岸で腰かける女の子と背景の中に小さく描かれている祭り。絵の大部分を占める海中と鰯の群れ。裏に貼られた詩は“大漁（たいれふ）”でした。

大漁（たいれふ） 金子 みすゞ

朝焼小焼だ  
大漁だ  
大羽鰯の  
大漁だ。  
濱は祭りの  
やうだけど  
海のなかでは  
何萬の  
鰯のとむらひ  
するだろう。

山口県の仙崎という宗教心の篤い漁村で育ったとはいえ、人の世界の祭りと同時に海中の世界の弔いが見えるみずの感性。“お魚”のなかで詠った魚たちを人が生きるためとはいえ、その命を奪はなければいけないことを悲しむみずの心。

猫の絵はまだ持っているのですが、大漁の絵は行方不明。残念です。

金子みずさんの詩は他にも沢山あり、その中には仏教的な感じ方と同時にキリスト教的な香りもあり、楽しめます。

雪 金子みず

だれも知らない野のはてで  
青い小鳥が死にました  
さむいさむいくれがたに  
そのなきがらをうめよとて  
お空は雪をまきました  
ふかくふかく音もなく  
人は知らねど人里の

家もおともにたちました

しろいしろいかつぎ着て

やがてほのぼのあくる朝  
空はみごとに晴れました

あおくあおくうつくしく

小さいきれいなたましいの  
神さまのお国へゆくみちを  
ひろくひろくあけようと

「義姉のこと」



□ □ □ □

義姉（兄嫁）は二年前の一月に七十二歳で天に召された。一年余の闘病の末だった。

義姉ががんになったと聞いた時、とても元気な人だったので、本当にびっくりした。

がんと分かるその少し前、義姉は家族で山登りをしていた。「頂上まで行くのがしんどい」と義姉がもらして、兄は「あれー、どうしたのかな」と思った

という。その後、帰宅しても家の階段を上がるのもつらいこともあって、検査を受けて、がんであることが分かったのだ。

その四年前の十一月には十四年間、共に暮らした義母（私の母）を九十四歳で天に送っていた。晩年の母は痴呆気味だったので、世話してくれている兄夫婦に私はとても感謝していた。

母も私には「再臨まで生きる」と冗談っぽくいうほどで、生活に満足し、感謝していたのだ。

母が亡くなって間もなく、兄ががんであることがわかり、私は母の世話が大変なストレスになっていたのだろうと思ひ、申し訳なく思っていた。兄は日常生活を取り戻していたけど、今度は義姉が病気になる。待望の孫も生まれ、これからという時だった。

私たち周りの者は、兄夫婦の病気が癒されるように、特に義姉のことを思い、毎日真剣に祈った。

しかし、皆の願いも空しく天に召さ

れたのだ。

私たちの願いはかなわなかったが、しかし神様の哀れみは確実にあったと思ふ。

義姉は病床で洗礼を受け、慰めと平安を得て天に召された。また病気のわかる少し前、長い間海外勤務だった長男家族が日本勤務になって、孫にも再々会うことができた。

またあとで聞いたことであるけれど、義姉は子供の頃、近所の教会の日曜学校に行っていたという。このことを聞いた時、私は、義姉は子どもの頃から、長い間、神様の導きのもとにあったのでは、と思わされた。

教会学校でささやかな奉仕をさせて頂いている者として、コヘレトの言葉「あなたのパンを水に浮かべて流すが良い。月日がたつてから、それを見出すだろう」を思い、私は励まされた。私たちの願いや思いを超えたところに神様のみ心はあるのだと、義姉のことをとおして思わされている。

### 「秩父墓苑墓地清掃と墓前礼拝」

に参加して

□ □ □ □ □

五月二五日 前夜から降り続き、生憎の雨の中、八時二十分、教会に集合。

久保島牧師御夫妻を中心に、婦人会共催参加者十八名。出発前、泰牧師の祈りのあと、マイクロバスにて出発!! 私といえば、半ば 物見遊山の気分で、ちよつと心踊る心地でもありました。目的地迄、約二時間の行程。初夏の埼玉路は、北に行くにしたがい、雨の中でも緑が段々と濃くなり、小さな街々、ところどころに黄色く熟れた麦畑……自然の生命に溢れていました。

車中、秩父墓苑の歴史などを聴き、讚美歌を歌って ほぼ定刻に墓苑に到着。しかし、雨は相変わらず降り続いていて 他の墓参に訪れている人達も流石に少なく、私達は各々雨具に着替えて、用意された草刈り道具等を持ち、傘を差し、坂道を登って行きました。

晴天であれば、桜の木々に囲まれたとても心地よいであろう小高いお墓の前で予期せぬ光景に出会いました。それは、それ程遠くない日に、どなたかが、きれいに清掃して下さり、お花も活けて下さった事だ、と解りました。多分、共同使用の他の教会の方々に依ってなされた事に違いなく、とても有難い事でした。私達は、一通り草をむしり、お墓を清めて、約二十分位で終了しました。

それから、墓前で、傘を差し乍ら、泰牧師の説教に耳を傾けました。

「私達が生かされているこの世も、未来の世界も イエス様の十字架と復活により、墓の中の死者も、生きているものも、イエス様が来られる日迄、永遠に続いて継がって行くものである」と……その様なことでした。

それから、予定では戸外での食事という事でしたが、雨の為、墓苑管理センターの中をお借りしてとる事になりました。用意された揃いのお弁当と、

お茶をいただき、楽しく会話も弾みました。果物や、お菓子を差し入れて下さった有志の方々に感謝です。やがて、食事が終わった頃から、雨も小止みになり、みるみる中にすっかり挙がり、雨の為見えなかつた秩父の山々の眺めと、丘の上から見える秩父の街並、雨の後の独特の匂いと空気が、辺り一面に漂っていて私達を歓迎してくれているのだと、勝手に喜びました。

帰路は「道の駅」に寄って、新鮮な野菜や珍しい物を見つけて求めたり、又、洒落た「ローズガーデン」に寄り、美しいバラ園を眺め乍ら、お茶を啜んだり、スイーツをお土産にしたりして車中の人となり、とても満たされた気分のみ、會田さんのリードで、沢山の讚美歌を歌いました。そして、予定より早く東大宮教会に帰ることが出来ました。

主に導かれ 聖靈に満たされて  
良き一日を持つことが出来ました、感謝です。また、次回も参加したいと思います。  
アーメン

## 牧師室より

牧師 久保島 理恵

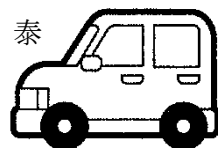
○スーパーの店頭で夏野菜が増えてきた。インゲン、アスパラ、スナックエンドウ。茹でてマヨネーズをつけて食べるのがお気に入りだ。

○ところで、スナックエンドウは、店によってスナックエンドウとも呼ばれる。どちらが正しいのか。そもそも、スナックって何だろう。そしてスナックとは？（夫の学生時代の友人「遠藤さん」は、いかにもスナックを経営しそうなキャラだったとか。もはや野菜の話ではないが…。）

○夏を迎えて好きだけ食したいのだが、ここで夫と娘が立ちはだかる、「青臭いところが嫌だ」と。そこがおいしいのだと力説してみても、二対一で敗れる。三人家族の悲しさである。

○パパ嫌期を卒業した娘は、争点次第で簡単に夫と手を組むようになった。おかげでこの件に関しては完全に形勢不利だ。二人は数にものを言わせて

くる。そういうのは、よくない。数で押し切るのはよくない。何事もきちんと議論を尽くすべきである。今年の夏も暑くなりそうだ。



牧師 久保島 泰

○教会の車が新しくなりました。といっても新車ではありませんが、前の車と比べて中が広々して居住性がよくなりました。

○ナンバーなのですが、好きな数字にできるといっているので、それなら、という事で希望した語呂合わせの数字になつていきます。それは？ここには書きません。ご確認ください。

日本基督教団 東大宮教会

〒337-0051

さいたま市見沼区東大宮五〇〇〜一

電話〇四八（六八四）五三二三

<http://www.hirasoomiya-c.sakura.ne.jp>